

「幸福度日本一のふくい」を県民に実感してもらい全国にアピールするため、県は「幸福」を思い浮かべる身近な場所やモノ、エピソードなどの「幸福アイテム」の募集を始めた。一方、戦後70年の写真展「幸福日本一に至るあゆみ」を30日～12月2日に県庁ホールで開催。同18日まで県内5カ所で開く。

## 30日から写真展

戦後70年の写真展で展示される昭和40年代の学校給食の風景 (県提供)



# 幸福度日本一を発信

幸福アイテムは、県民が感じた幸せの「こまを」、一般部門、シニア部門（65歳以上）、ジュニア部門（高校生以下）に分けて募集。写真データ（理由を添える）またはエピソード（100文字程度）をメール（seisaku@pref.fukui.g.jp）で応募する。参考例として、大野市の春日神社の「良縁の樹」や三方五湖の「恋人の聖地」（美浜町、若狭町）、越前市のコウノトリなどをあげている。

応募作を審査し、幸福日本一ふくいを象徴する作品を選定する。選ばれた人に賞品（図書カードなど）を贈呈する予定。締め切りは平成28年1月8日。

「ココロも満タンに、コスモ石油」などで知られるコピーライターの中畑貴志さん（68）のアドバイスを受けて、「どのようなアピールするのか検討し、28年度から企画事業を進める」（県政策推進課）としている。

一方、戦後70年写真展は、福井震災（昭和23年）や福井豪雨（平成16年）などの災害の困難を乗り越えて発展した軌跡を「社会基盤の整備と県民生活の向上・変化」「地場産業、農林水産業の発展と観光の振興」など3分野に分けて、昭和40年代の学校給食や30年代の集団就職などの写真約150点を展示する。

展示場所は30日～12月2日が県庁、同4～10日が福井市手寄のアオッサなど3カ所、同12～18日が県立若狭図書学習センター。28年2月7日には「ふるさとの日シンポジウム」を開催。活動弁士による「幸福日本一までのあゆみ」の講談などを行う。

# 幸

## セアアイテム

## 県が募集

いずれも問い合わせは、県政策推進課（☎0776・20・0226）。